



— 発行 全国高等学校演劇協議会 —

〒270-0025 千葉県松戸市中和倉590-1 千葉県立松戸高等学校 TEL(047)341-1288 FAX(047)346-4002

事務局長 阿 部 順 編集加藤悟

ホームページ <http://koenkyo.org/> メール info@koenkyo.org

第62回 広島大会によせて

全国高等学校演劇協議会

会長 揚 村 洋一郎



第62回全国高等学校演劇大会は、第40回全国高等学校総合文化祭の主催県である広島県において、ここ広島市JMSアステールプラザ大ホールを会場に8月1日～3日の3日間にわたって開催されます。全国8ブロックより推薦を受けた11校に開催県の広島からの1校を加えた12校の作品が上演されます。

全国高等学校総合文化祭は、文化部のインターハイとも呼ばれ、演劇をはじめ高等学校文化連盟のすべての部門における日頃の部活動の成果が披露される場です。本大会も約2万人を超える高校生の参加が予定されています。「創造の風 希望の光 平和を願う心 三本の矢に込めて」という「2016ひろしま総文」のテーマのもと、実行委員会を中心に総力を上げて、広島の地に高校生の文化の祭典が繰り広げられます。

演劇部の生徒にとっては舞台上に新しい世界を創りだすことが大きな喜びです。単に上演するだけの喜びにとどまらず、笑いや涙とともに、より質の高い感動を観客の皆さんと共有することを目指しています。そのために、身体訓練に始まり脚本制作・研究、演出・演技の工夫、舞台装置の作成……といった演劇創造に努力を惜しません。このような日常活動の積み重ねによって生まれた舞台が、今まさに花開こうとしております。生徒の真摯な活動を支え、応援していくことは私たちの使命だと考えています。

一方、全国大会において当初より「指導者講習会」を掲げているのも、高演協の姿勢の表れの一つです。指導者の養成は高校演劇の大きな課題です。初めて演劇部の顧問を引き受けたはみたものの、演劇に関する知識も経験も乏しく、指導方法もおぼつかないという話をよく聞きます。そのような方々のためにも、本大会では、様々な講習会・研修会を開催しております。演劇を志し、意欲のある先生方や指導者が増えていくことを支援していくのも高演協の重要な役割の一つです。毎年「指導者講習会」に参加された先生方から、今後の演劇部の指導に大いに参考になったとのご意見を頂いております。かく言う私も素人ですが共に勉強して参りましょう。

高演協は、地区大会を経て都道府県の中央大会への出場が決まり、ブロック大会を経て全国大会に臨むという、コンクール形式をもって各大会が運営されています。演劇という表現形態のため、その審査には地区大会から専門家があたることになります。そのため、演出・演技、装置、音響・照明といった総合的な見地に立って、専門的な判断や講評を仰ぐことができます。皆さんのご覧になった演劇について、専門的な立場からご指導・助言をいただけるということが、演劇作りの質的向上に大いなるヒントを与えてくれます。

いよいよ第62回全国高等学校演劇大会が始まります。この広島総合文化祭・40回の節目として、大変意義のある大会であり、各ブロックから推薦された12校の意気込みを強く感じます。本大会を通して生徒及び関係者の方々との交流が深まり、文字通り演劇創造としての舞台が築かれようとしています。これまで高校演劇に取り組まれてこられたすべての方々のご尽力に思いをはせながら本大会に望みたいと思います。

結びに、数年も前から準備にご苦労をいただいている開催地広島県の担当者をはじめ関係各位の皆様に厚くお礼を申し上げます。

(全国高等学校演劇協議会会長 東海大学仰星高等学校中等部・高等学校校長)

ようこそ「ひろしま」へ

日浦 肇



第62回全国高校演劇大会（広島）に全国各地から参加される皆さん、そして高校演劇に格別の関心をお寄せいたいた皆様、ようこそ広島においてくださいました。心より、歓迎申し上げます。

広島市は約400年前に広島城が築城されてから、川の町として栄えてまいりました。市内の川には江戸時代からの船着場である雁木（がんぎ）が至る所に残っています。明治になり広島城には大本営が置かれ広島は軍都「廣島」となります。そして、71年前の原爆によって、人々が行き交う活気ある町は失われました。「ヒロシマ」のはじまりです。現在、その場所には平和記念公園がありますが、そこに「町がない」ことの裏返しでもあります。広島は焼け野原から復興し、今や広島のソウルフードと言われる「お好み焼き」やプロ野球の球団「広島カープ」はそのシンボルとして語られています。

「創造の風 希望の光 平和を願う心 三本の矢に込めて」というテーマで開催される第40回全国高等学校総合文化祭のことを私たちは、平仮名を用いて「2016ひろしま総文」と名付けました。本大会は、ひろしま総文の開催期間のうち8月1日（月）から8月3日（水）の3日間に、平和記念公園に程近いJMSアステールプラザにおいて実施されます。全国2000校を超える加盟校のうち、全国8ブロックから選抜された12作品が上演されるだけでなく、選抜された生徒による生徒講評委員会も同時に開催されます。様々な感性が飛び交う大会であってほしいと願うと同時に、高校演劇に親しむ高校生が、「あるもの」「ないもの」ひっくるめて感じてもらえる場となれば幸いです

最後になりましたが、この大会の開催にあたり、ご指導とご協力を賜りました全国高等学校演劇協議会の先生方をはじめ、本県の全国高等学校総合文化祭推進担当の皆様、そして全国各校の演劇に携わっておられる先生方に心から感謝を申し上げ、歓迎のご挨拶いたします。

第40回全国高等学校総合文化祭演劇部門部会長（広島市立舟入高等学校長）

ようこそ、41年ぶりの熱い広島へ。

松本 誠司



「国際平和文化都市」広島へようこそ。運営役員一同、皆様を歓迎申しあげます。広島で全国大会が開催されるのは1975年第21回大会以来。当時はまだ全国総文はなく、演劇独自の大会でした。会場は広島市公会堂。広島市の中心、平和公園の中にあるホールでした。あれから41年の時を経て、第62回全国大会が再びここ広島で幕を開けます。会場は平和公園の南、広島の演劇のメッカ「JMSアステールプラザ」。広島の街もさすがに41年前とはずいぶん様変わりしています。しかし、舞台にかける情熱は、当時と変わっていないのではないでしょうか。運営担当教員の中には、当時生徒役員だった者もいます。あらためて、これまで大会に関わってこられた諸先輩方の熱意とご尽力に感服するとともに、その歴史を受け継ぎ新しい1ページを刻んでいくことに大きな責任とやりがいを感じております。

昨年の夏、広島の情熱を象徴する赤Tシャツに身を包んだ50数名の生徒・教員が滋賀大会を視察しました。実行委員の皆さんのかぎりかぎりした態度や行き届いたおもてなしの姿勢に感動し、身の引き締まる思いを抱きました。以来、何度も集まり、「どんな大会にしようか」「広島らしさをどう出そうか」と話し合いを重ねてきました。果たしてその成果が十分に表れているか心もとない限りですが、上演校の皆さんや観客の皆様の思いとシンクロして、熱く盛り上がる素敵なかいを演出できれば…と思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

（第40回全国高等学校総合文化祭演劇部門部会代表委員）

全國大会 出場校一覧

学校名	作者名	作品名
広島市立沼田高等学校	黒瀬貴之	そらふね
青森県立青森中央高等学校	畠澤聖悟	アメイジング・グレイス
静岡県立伊東高等学校	伊東高等学校演劇部・加藤剛史	幕が上がらない
北海道北見北斗高等学校	北見北斗高等学校演劇部・新井繁	常呂から (TOKORO curler)
広島市立舟入高等学校	周防柳／作、須崎幸彦／脚色	八月の青い蝶
岐阜県立岐阜農林高等学校	岐阜農林高等学校演劇部	Is (あいす)
北海道清水高等学校	清水高等学校演劇部	その時を
佐賀県立佐賀東高等学校	いやどみ☆こ～せい・佐賀東高校演劇部	ボクの宿題
埼玉県立芸術総合高等学校	オノマリコ	解体されゆくアントニン・レーモンド建築 旧体育館の話
徳島県立阿波高等学校	よしだあきひろ	2016
和歌山県立串本古座高等学校	出口耕士朗・藤井良平	扉はひらく
山梨県立白根高等学校	河野豊仁	双眼鏡

講習会講師一覧

- 第1分科会 「演技・演出」 森 さゆ里 氏
 第2分科会 「劇作」 中島かずき 氏
 第3分科会 「舞台技術講習」 土屋 茂昭 氏 長田佳代子 氏 乳原 一美 氏 藤田 赤目 氏
 第4分科会 「舞台衣裳」 加納 豊美 氏
 第5分科会 「部活動」 米永 道裕 氏 安保 健 氏 井口 守 氏
 第6分科会 「生徒講評委員会合評会」

大会日程表

第62回全国高等学校演劇大会(広島大会) 第62回全国高等学校演劇指導者講習会
第40回全国高等学校総合文化祭演劇部門

期間 2016(平成28)年7月29日(金)~8月3日(水) 会場 J M S アステールプラザ

	7月29日(金)	7月30日(土)	7月31日(日)	8月1日(月)	8月2日(火)	8月3日(水)	
8:00							8:00
8:30				開館	開館	開館	8:30
9:00	開館	開館	開館	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	9:00
9:30	大会役員打ち合わせ	大会役員打ち合わせ	リハ②準備	リハ⑧準備	開場 8:45	開場 9:00	9:30
10:00		リハーサル② 9:30~10:50 青森中央 高校		リハーサル⑧ 9:30~10:50 舟入高校	生徒講評委員会 会議①	上演6 9:30~10:30 「Is(あいす)」 (岐阜農林高校)	上演11 9:30~10:30 「扉はひらく」 (串本古座高校)
10:30	舞台総合 仕込み			リハ⑨準備	生徒講評委員会 研修	休憩	生徒講評委員会
11:00	実行委員会		リハ③準備	リハ⑩準備	上演1 10:10~11:10 「そらふね」 (沼田高校)	休憩	上演12 11:00~12:00 「その時を」 (清水高校)
11:30		リハーサル③ 11:00~12:20 伊東高校		リハ⑪準備	昼食休憩	上演2 11:40~12:40 「アメイジング・グレイス」 (青森中央高校)	12:00
12:00					昼食休憩		
12:30	昼食休憩		仕込み調整 昼食休憩	仕込み調整 昼食休憩		昼食休憩	12:30
13:00		リハ④準備		リハ⑫準備			移動
13:30	舞台総合 仕込み 開会式リハ 準備	リハーサル④ 13:00~14:20 北見北斗 高校		リハ⑬準備	全国理事会	上演8 13:00~14:00 「ボクの宿題」 (佐賀東高校)	13:00
14:00	会場設営			リハ⑭準備	生徒講評委員会 研修	休憩	
14:30		リハ⑤準備		リハ⑮準備	生徒講評委員会 研修	上演3 13:40~14:40 「幕が上がりない」 (伊東高校)	14:00
15:00	開会式 リハーサル 14:30~15:20	リハーサル⑤ 14:30~15:50 岐阜農林 高校		リハ⑯準備	四県引き継ぎ会	休憩	
15:30	リハ準備			リハ⑰準備	生徒講評委員会 研修	上演4 15:10~16:10 「常呂から(TOKORO curler)」 (北見北斗高校)	14:30
16:00	リハーサル① 15:30~16:50 沼田高校			リハ⑱準備	生徒講評委員会 研修	休憩	移動・休憩
16:30		リハ②準備		リハ⑲準備	生徒講評委員会 研修	上演9 14:30~15:30 「解体されゆくアントニン・レーモンド 建築 旧体育館の話」 (芸術総合高校)	15:00
17:00	交流会リハ準備			リハ⑳準備	生徒講評委員会 研修	休憩	講評 (審査員) (生徒講評委員)
17:30	生徒交流会 リハーサル 17:00~18:30	リハーサル⑥ 16:30~17:50 清水高校		リハ㉑準備	生徒講評委員会 研修	上演10 16:00~17:00 「2016」 (阿波高校)	16:00
18:00				リハ㉒準備	生徒講評委員会 研修	休憩	
18:30		リハーサル⑦ 18:00~19:20 佐賀東高校		リハ㉓準備	生徒講評委員会 研修	休憩	休憩
19:00	役員打合			リハ㉔準備	生徒講評委員会 研修	閉会式 リハーサル 17:30~18:30	16:30
19:30					顧問総会		
20:00	仕込み				生徒講評委員会 研修会		17:00
20:30					仕込み		
21:00						会場撤収	20:00

特集

全国大会出場校による

① 今日もご飯を炊こう。

あの暑い夏から10年経った昭和30年の広島。少しずつ復興する町、戻りつつある日常生活。そんな広島で懸命に生きる二人の姉妹の物語。お母さんが作った空を飛ぶ船のおはなしには、二人へのある思いが込められていた――

夢と希望を乗せたそらふねが皆様の心に届きますように、
夢の全国の舞台で精一杯上演します。

(瀬角 萌)

広島・沼田高等学校



⑤ ツバメシジミ「昆虫綱鱗翅目シジミチョウ科」

分布：北海道から九州

形態：前翅長 9～10mm前翅に燕のような短い尾がついている。

生態：3～10月に河川敷などで見られる。

備考：「八月の青い蝶」では、元安川（広島デルタの6河川のうちの1つ。灯籠流しで知られる。）の畔に登場する。その優しく美しい姿は、恰もあの人ようだ。

(熊谷 亮輔：森本 綾乃)

広島・舟入高等学校



⑨ わたし、これまでのこと、これからのこと

日々、解体されゆくあれこれ。アントニン・レーモンド建築って、旧体育館ってなんぞや。知らなかつたことが知つてることになる。それってすっごく嬉しいんだけど、出会いにはないさよならの美しさについて。わたしがあなたでないことや、わたしがわたしであることについて。他にも色々。考えて、話をしていきたい、わたしたちと、みなさんで。

(山下 恵実)

埼玉・芸術総合高等学校



全国各ブロックから推薦をされた12校が、JMSアステールプラザの舞台にそろいました。今年も出場校から届いた「舞台に込めるメッセージ」を届けさせていただきます。この演劇創造を手にとって読んで下さっているみなさんに、少しでも舞台の雰囲気や上演にむけた熱い意気込みが舞台写真やメッセージから届けばと思います。上演される各校のみなさんは、はつらつとした演技で観客のみなさまを魅了していただきたいと思います。

最後になりましたが、今回の特集のために出場校のみなさまには、貴重な時間を割いていただきました。各校の演劇部員のみなさまに心から感謝申し上げます。（上演順）

② だって人間だもの

「・・・アメイジング・グレイス」

「アメイジング・グレイス？」

「神の驚くべき恵み」

劇中何度も流れるこの歌。きっと聞くたびに違う感じ方をするはずです。

この作品を広島で演じることが出来るのはきっと何か縁があると思います。部員全員の体を張った演技、どうぞご覧下さい。

(菊池 果歩)



青森・青森中央高等学校

⑥ 戦う者の唄が聞こえるか

イチゴ実習も うまくいかない。

バスケットボール部も うまくいかない。

男と女も うまくいかない。

だから、戦う。

戦う者の唄はきっと聞こえる。

岐阜農林高等学校演劇部が送る戦う60分の物語。

「Is」を 愛す 想いを込めてお送りします。

(演劇部一同)



岐阜・岐阜農林高等学校

⑩ 野外音楽堂

演劇部の活動場所は野外音楽堂というところです。音楽堂というものの、学校祭の有志ライブ以外では使われません。いかんせん外ですから、あまり音が大きいと近所迷惑にもなるわけです。最近ではバンドをする連中も体育館のステージを使いたがってますから、早晚、音楽とは完全に無縁の世界になるでしょう。2016年で32年目を迎える音楽堂。そこが私たちの城です。

(演劇部一同)



徳島・阿波高等学校

「舞台にこめるメッセージ」

③ 「あの映画」についてよく聞かれます。

私たちにはその度に困っています。そもそも観てません。

伊東市には映画館がありません。TSUTAYAも品薄です。山の向こうの三島市や富士市の高校演劇部は作中にエキストラ出演もしているそうですが、私たちは。「あーあ、『幕が上がらない』。」初めての全国大会。部員や先生方、家族や他校演劇部の激励など、沢山の想いに、感謝です。

(永田 莉子)

静岡・伊東高等学校



④ 小さなマチから、大きな世界へ

カーリングという競技を知っていますか？氷の上でストーンを投げ、相手チームと得点を競い合うという、最近注目される機会が多くなってきたスポーツです。

『常呂から (TOKORO curler)』は、常呂町という小さなマチにいち早くカーリングを普及させようとした一人の男と、その家族の物語です。北海道の厳しい寒さの中に燃る家族の温もりを、皆様にお届けします！

(演劇部一同)

北海道・北見北斗高等学校



⑦ 青春って何だ！

とある田舎の奥山高校。今年は生徒達にとって最後ばかり。学校生活も、学祭も、部活も。みんなそれぞれの最後の時を迎える。彼らは全力で恋をしたり、ぶつかり合ったり…。私達は全力な彼らを全力で演じます。

「その時を」。それはみんなの青春物語。どうか楽しんでご覧ください。

(川崎 麗空・村瀬 智洋)

北海道・清水高等学校



⑧ 「さあ、未来の話をするよ。」

また学校を休んでしまったボク。そんなある日、あの父親が珍しく語りかけてきた。

「恭一、未来の話をするぞ。」ずっと出さないつもりでいた、ボクの宿題。止めていたはずの時間が、また身勝手に動き出した。

九州の仲間たちからパワーをもらいながら、皆様の心に残る上演を目指します。よろしくお願いします。

(東劇一同)

佐賀・佐賀東高等学校



⑪ その扉をたたくと、扉はひらくのだろうか

去年の夏、それまで誰にも話さなかった自分の過去について語り合うところから、この劇は始まった。それを口にするのは勇気がいった。何より苦しかった。そんな思いの中から言葉が生まれて、この劇はつくられた。はたして扉はひらくのかどうか、この劇を観てくださる方々に最後まで見届けてほしい。そして何かが伝わったら、うれしい。全力でがんばります。

(出口耕士朗)

和歌山・串本古座高等学校

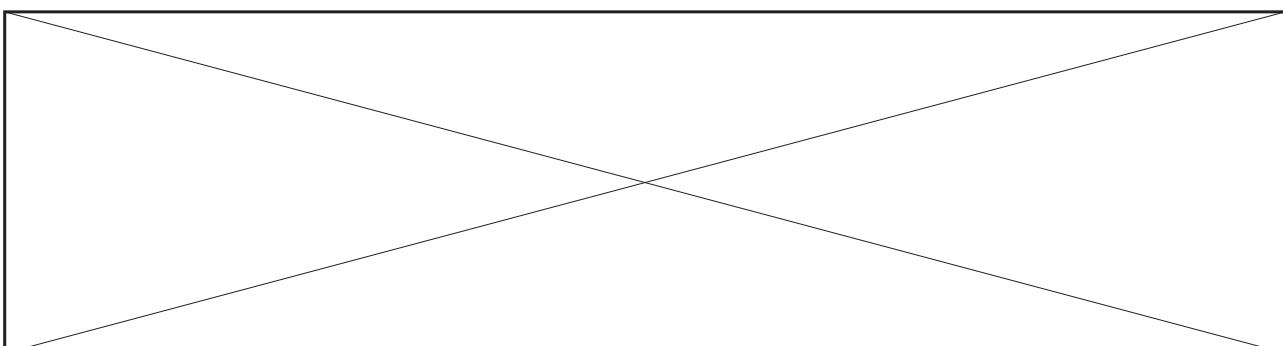


⑫ 「約束と沙織と双眼鏡」

引きこもりから脱却しようと自分自身と葛藤しながら生きていく主人公・・・沙織。今日は神社の祭りの日、約束の人との待ち合わせまであと45分。沙織は自分の部屋から祭の様子を「双眼鏡」で見つめている。さて、その人は現れるのか？約束の午後7時になるまで、沙織の日常を一人で演じます。最後までどうぞ御覧下さい。

(三輪 萌)

山梨・白根高等学校



第十回春季全国高等学校演劇研究大会 (フェスティバル2016)

今年の春季研究大会は、2016年3月19（土）～21日（月）に伊達市・伊達市教育委員会・NPO法人伊達メセナ協会はじめ多くのみなさまのお力をいただき、北海道伊達市のだて歴史の杜カルチャーセンターで開催されました。

東日本大震災による未曾有の被害状況が明らかになってくる中で、今回と同じ、伊達市で開催を予定していた第五回春季研究大会について、全国高演教では各地からの情報収集・開催についての意見集約を行い、特に北海道への交通機関と会場及び宿泊施設の安全を確認した上で、2011年3月18日～20日に、各ブロック代表10校のうち残念ながら4校が参加できませんでしたが、6校の上演で行われました。その後、すでに予定されていた宮城県仙台市（第六回）・福島県いわき市（第七回）、そして、岩手県北上市（第八回）と、被害の大きかった東北三県での開催の後、夏の第57回全国高等学校演劇大会を福島県に代わって開催してくださった、香川県で第九回大会を開催しました。東日本大震災から5年、まだまだ復興への長い道のりは続いているが、第十回大会は、第五回に6校しか集まれなかった、だて歴史の杜カルチャーセンターで、今回はすべての上演校がそろって大会を開催することができました。東北三県・香川県に続いて、記念すべき第十回大会を伊達市で開催したことには、大きな意味があったと思います。

今大会は、男子だけの上演が3校、女子だけの上演が2校、作品の内容も、高校演劇の定番を丁寧に演じたもの・かっちりした芝居創りのもの・演劇の新しい息吹を感じさせるもの・顧問教員たちにとっては懐かしい匂いのするもの等々、非常にバラエティーに富んだ優れた作品が集まった、レベルの高い大会でした。上演校が一つの宿舎で宿泊できたことや、北海道の生徒さんが作成した講評文を各上演校に送っていただいたことも、研究活動・交流活動に大きく寄与したものだと思います。

春季研究大会も十回を終え、これまでの総括とともに今後の大会のあり方について検討を行います。劇団四季の後押して始まったこの大会が、高演協独自の大会として、より充実した大会になるよう、力を合わせてまいりたいと思います。

第十回春季全国高等学校演劇研究大会（フェスティバル2016）上演校一覧

北海道旭川南高等学校	to get her!	帯広柏葉高等学校演劇部 作
北海道大麻高等学校	Sunny Rainy Day	山崎 公博 作
山形県立山形東高等学校	隧道	安孫子 陶 作
埼玉県立川越高等学校	最貧前線	宮崎 駿 原作 阿部 哲也 脚色
筑波大学附属駒場高等学校	ガンジス川を下る	筑波大学附属駒場高等学校演劇部 作
愛知県立蒲郡東高等学校	ぽっくりさん	亀尾 佳宏 作
兵庫県立明石南高等学校	白バラ女学院	光武 太郎 作
福山市立福山中学・高等学校	エルドラード2	新宮 正一 作
徳島県立城北高等学校	Love & Peace	古田 彰信 作
精道三川台中学高等学校	昼鶴	塙原 政司 作



愛知県立蒲郡東高等学校



埼玉県立川越高等学校



兵庫県立明石南高等学校



北海道旭川南高等学校



山形県立山形東高等学校



筑波大学附属駒場高等学校



精道三川台中学高等学校



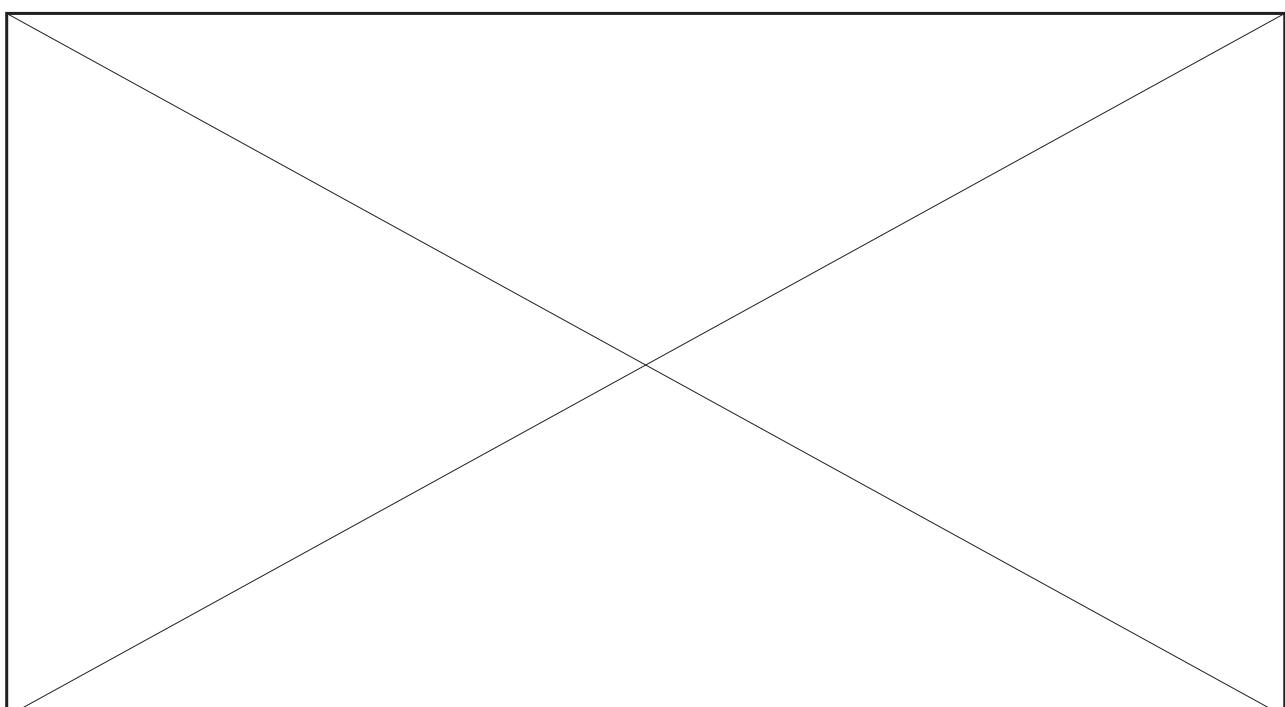
徳島県立城北高等学校



福山市立福山中学・高等学校



北海道大麻高等学校



都道府県だより

宮城県

思うこと

林 剛史

いよいよ迫ってきました、宮城で開催される2017年度の全国大会。これまで実施してきた各県の様子や話を聞き、その大変さは頭では分かっていたのですが、このくらい迫ってくると身体でも分かってきました。部門代表委員をはじめとするそれぞれの担当の先生方は徐々に余裕がなくなり、自然と目つきも鋭くなり、半分冗談みたいなこの文章を読んだら口をきいてくれなくなる人も出てくるのではないかと危惧しています。

そして「多分に漏れず」、私も慣れぬ事務局長となり、他の顧問の先生にご迷惑をかけながらバタバタと活動しています。事務局長とは、実は範棒な雑用係なんですね…、嗚呼、事務局長（涙）。でも顧問の皆さん、そして大会を盛り上げる演劇部員の諸君、頑張りましょう！そして、全国から来る沢山の方々にとって良い思い出になる大会にしたいと思います。

さて、そんな宮城県ですが、現在加盟校数は45校です。それぞれの学校がよりよい演劇づくりを目指して頑張っています。コンクールや各校での文化祭公演が活動の中心ですが、夏には全県レベルでのリーダー研修会や総合研修会を実施し、個々の基礎固めや技術・知識の習得・向上など、各校部員同士の切磋琢磨を図っています。また、春を中心に各校の単独公演や複数校による合同公演もみられ、「近年ますますレベルアップしているのではないか」と言われるようになってきました。今後の更なる発展が本当に楽しみです。

しかし、同時に学校間での部員数格差も目立ってきた気がします。部員数の多い学校は、多いがゆえに脚本作りやキャスト・スタッフの配置・連携、人間関係などに悩みを抱え、それはそれで大変なのですが、それでも少人数で活動がままならない学校よりは…。経験がある方なら誰でもお分かりかとは思いますが、「1人でも部員がいれば活動はできる」とは言ってみるものの、実際少人数での活動は大変です。顧問は言うに及ばず、部員以外の助っ人がいなければコンクールへの出場も難しい学校もあり、部員のモティベーションをキープし続けるのも一苦労です。限られた高校生活の中で、せめて部員が「演劇部に入ってよかった」と思えるように、なんとかこういう状況の学校や部員を支え、活動が続けられるようにしていくのも、高校演劇の発展を目指すにあたって大事なことだと思います。さしあたっては部員数拡充が最需要ミッションかと思いますので、全国の部員数拡充に成功している顧問および部員の皆さんの知恵と経験を伝授してほしいと思います。昨年度の滋賀で行われた全国大会では、このことをテーマとした講習会が行われましたが、この企画はぜひ毎年実施してほしいなあ…と思いました。

私自身、演劇部の顧問をして気付けば10年以上が経ちました。毎年部員数の確保に悩み、部員とともにより良い演劇をめざし、コンクールの結果に一喜一憂し、3年間頑張った部員が引退・卒業していく姿を誇らしくも寂しく見送る…毎年この繰り返しですが、その中には不思議な何か（演劇の神？）が宿っていて、それに踊らされる心地よさによって続けられるのだと思います。そして、これまで高校演劇に尽力してきた諸先輩の礎があり、現在があるのだと思います。まだまだ礎の一部になるには遠く及ばない私としては、ますます周囲に支えられながら頑張り続けるしかありません。そして、来年度の全国大会が素晴らしい大会になるよう、部門代表委員や各担当の先生の陰日向となっていければと思います。よって、こんな事務局長に対し、鋭い目で見たり口をきかない等ということは決して無いよう願います。

(宮城県高等学校演劇協議会事務局長)

神奈川県**大きな変換期****櫻内 正美**

神奈川県は、今年55回目の県大会を開催します。加盟校は130校。この20年で増減はありましたが、一時100校近くまで減った数がここ数年で回復してきています。県内は6地区に分かれ、地区大会をへて13校の代表が県大会に出場し、関東2校の枠を巡って競い合います。神奈川県は東西に長く、それぞれの地区の特色があります。西からの西相地区、海沿いに湘南、横三地区。県央の北相地区。全体の3分の1を占める最大勢力の横浜地区。東の端の川崎地区からなります。

過去50年をふり返ると、第2次黄金期を担い、これまで県の演劇を引っ張ってこられた先生方の多くが引退され、県の演劇も第3の大きな変換点にきています。全国大会で活躍された、麻布大学附属渕野辺高校（現麻布大学附属高校）の佐藤栄一先生、大船高校の野間哲先生も今年が最後の年となりました。多くのこれまで中心となられた先生方が現場を離れ、県の演劇事情もこれから大きく舵を切ることになります。私は事務局長3年目になりますが、今育ってきているこれから若い先生方にしっかりバトンタッチする、中継ぎ役と考えて頑張っています。

この神奈川県に、2018年3月、春の全国大会（春フェス）がやってきます。関東圏では最初の開催となります。会場は県大会と同じ、県立青少年センターです。センターは神奈川高校演劇のメッカとして、県連盟発足当時から多くの先人たちが集ってきた場所です。最大の特徴は回り舞台です。建てこみなど準備をお盆の前と後ろで同時に行えますから、とても便利で時短にもなります。2019年1月には、続けて関東大会が開催されます。神奈川県の演劇は、昨年全国大会に進出した神奈川大学附属高校のしゃれた感じの演劇でも知られるようになった（？）ように、創作演劇が盛んです。県立だけでなく、私学の発表会も今年で22回を超え、県大会、関東大会への出場も増え、実力もレベルアップしています。

発表会だけでなく、技術の向上をめざし、県では様々な講習会を実施しています。夏の技術講習会（照明・音響・大道具）、演劇講習会（演技、発声、ダンス、殺陣等）・夏季宿泊講習会、冬の演劇講習会など毎年企画して実施しています。また、学校教育の中に演劇を根付かせようという取り組みも盛んに行われています。「演劇」は、学校設定科目授業として展開しやすいため、単位制普通科や総合学科などで、様々な取り組みが行われてきました。演劇について様々な角度から学ぶ学校や、演劇的手法によって生きる力の伸長を育む学校もあります。演劇の専門家を養成することを目的にはしないものの、私たちは、演劇に関わる様々なアクティビティによって、生きていくための多様な力を高めてきたと考えています。いま、神奈川県は高校教育改革を推進していますが、効率ではなく、いまの子どもたちに真に必要なものとして、引き続き「演劇」の授業に取り組んでいます。

どの機会でも、なにより生徒同士の交流を大切に考え活動しています。県も地区も私学も生徒実行委員会の自主性を重んじて、大会、発表会の運営を生徒が行っています。ぜひ、皆様と県青少年センターでお会いできるのを楽しみしております。

（神奈川県高等学校演劇連盟事務局長）

岐阜県**日本の真ん中から****磯部 徹**

まずは私事から。

今年教員生活26年目、そのうち演劇部顧問として12年目。高校演劇に初めて携わったのが18年前。高校時代、文化祭でクラス劇をやった以外は演劇経験はありません。そんな私が演劇部の顧問になったのは、もちろん希望ではなく学校の事情によるもの。人事異動により空いた顧問の席を誰かが埋めなければならない。が、演劇部顧問の空席に積極的に手

を上げる人はいません。そこに現れた事情も分からぬ新転任者。お、ちょうどいいじゃないか、国語の先生じゃないか。（国語の先生だとちょうどいいらしいのです）という安易な発想から。そう、今も昔も演劇部はそういう扱いなのです。そして、私にとってその高校演劇との出会いがその後の人生を大きく変えることになります。

高校演劇と出会わなければ知らずに済んだもの。それは、大会へ向けてのストレスです。岐阜県の県大会は8月の上旬にあります。そこへ行く前に7月下旬の地区大会があります。今、この原稿を書いているのが5月の末。そろそろ大会へ向けて動き出さねばならない時期です。でも、台本が上がらない。書けないので。本当に大会に間に合うのだろうか。今年は幕が上がらないのではないか。これが大きなストレスなのです。1年目はさすがに「書けない！」と突っぱねましたが、2年目からは「国語の先生が書けないわけがない」（国語の先生は書けるらしいのです）の言葉に押し切られ、それ以降このストレスに毎年苦しめられることになりました。

ところがある年、そのストレスから解放されることになりました。転勤により演劇部のない学校へ異動したのです。その開放感たるや！ そうだよな、普通の教員生活はこうだよな、もう書くことはないだろう、と思っていたはずが、職員劇、クラス劇、有志を集めての文化祭の劇。気づいたらやはり書いていました。そう、私はもう冒されていたのです。恐るべし高校演劇ウイルス。

その後、転勤により演劇部顧問に復帰。今はまた、書けないストレスに襲われています。

さて、今度は岐阜県の話。

第11回春季高等学校演劇研究大会（フェスティバル2017）が平成29年3月、岐阜県大垣市で開催されます。岐阜県は生徒実行委員会を組織し、大会の運営をほとんど生徒に任せています。代表校の素晴らしい上演だけでなく、生徒実行委員会の動きもお楽しみいただけたらと思います。

大垣市は奥の細道むすびの地として有名な場所です。近くには天下分け目の戦いでおなじみ、関ヶ原もあります。観光がてら足を運んでいただけたら幸いです。

日本の真ん中から皆さんをお待ちしております。

（岐阜県高等学校文化連盟演劇部会事務局長）

愛媛県

愛媛県の高校演劇の徒然

神田 明典

おいでんよ、愛媛へ。愛媛の魅力は何といっても、道後温泉にみかん、そして瀬戸内の温暖な気候、それにえ～と…あといっぱいです！ ちなみに人も温かい！ しかも、2017年はえひめ国体の年！ 「愛顔つなぐえひめ国体」のスローガンの下、みきゃんを中心に県民全体で温かいおもてなしができるよう頑張ります。ぜひおいでんよ、愛媛へ。と月並ですが、愛媛県のアピールから始めさせていただきました。都道府県便りの依頼を受けまして、僭越ながら愛媛県の演劇部の実情と、私と演劇の関わりについて、ありのままかつ徒然に綴らせていただきます。一部独断と偏見が混じっていますが、お許しを。

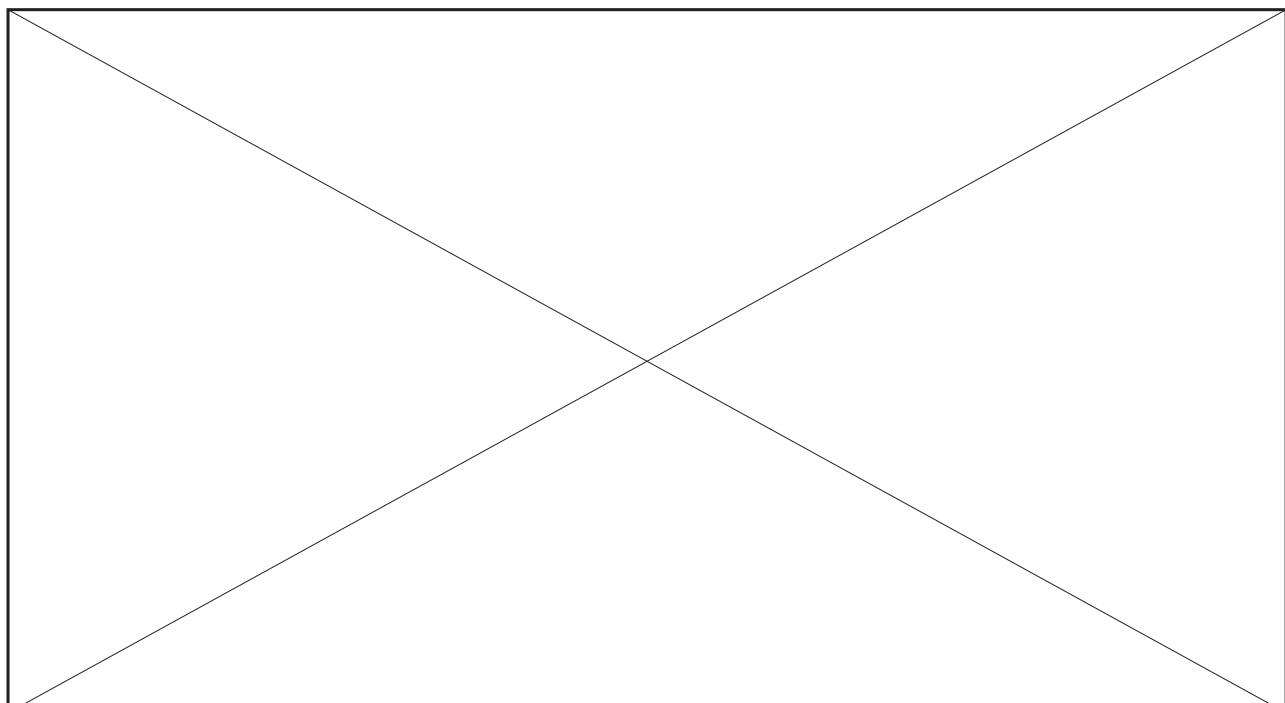
さて、愛媛県の演劇専門部は今年で30周年。それまでは県下で演劇の大会は実施されず、各校それぞれで活動はしているのですが…な暗雲立ち込める時代でした。そんなまだまだ中年にも満たない年齢の愛媛の名を一気に全国に知らしめたのが横川節大先生率いる川之江高校の全国大会2連覇です。その手腕は衰えるどころか年々凄みを増し、松山東高校を率いておられる現在も"同じ高校演劇とは思われない舞台"をつくられます。まさに坂の上の雲の存在。どの学校も少しでも近づこうとそれぞれの学校の色を出してがんばっています。

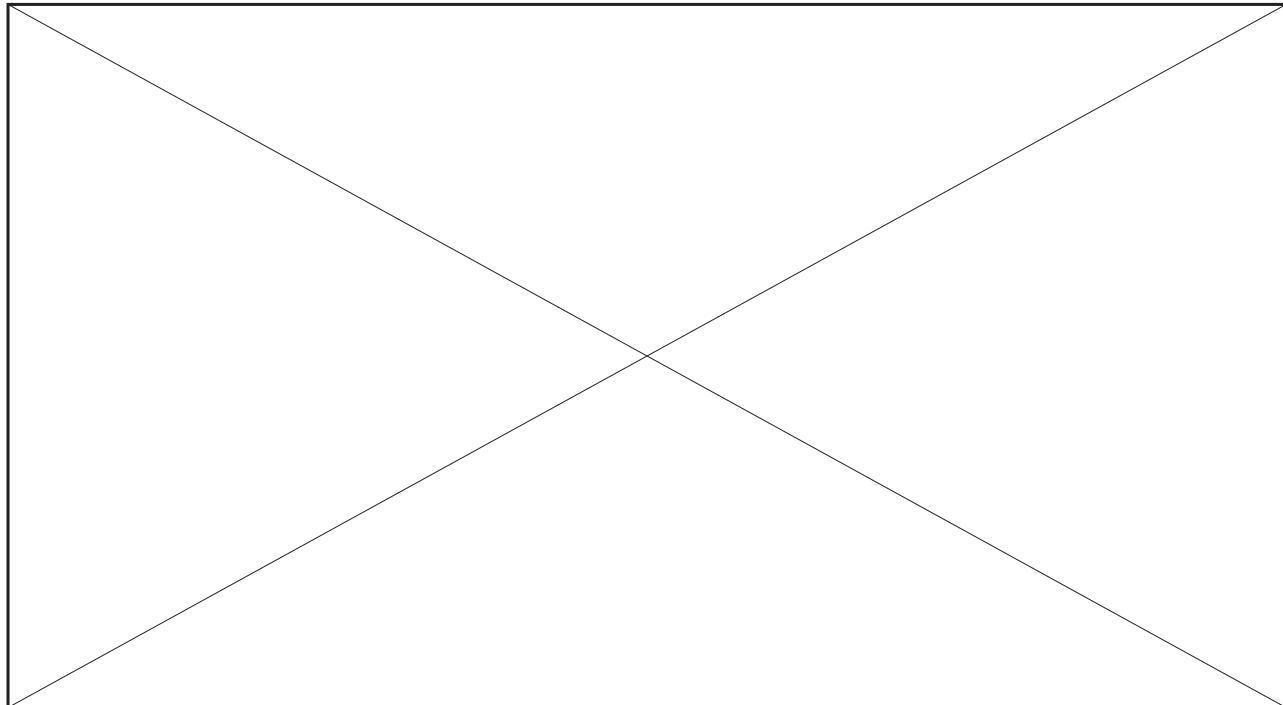
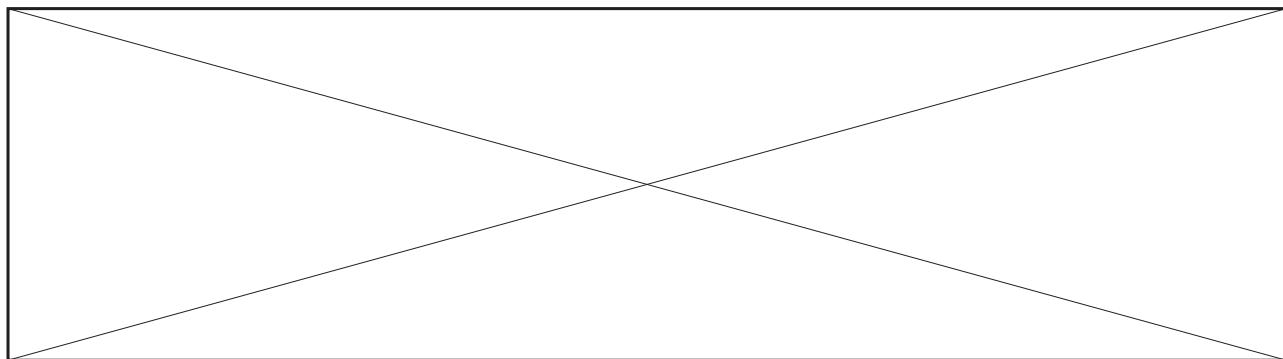
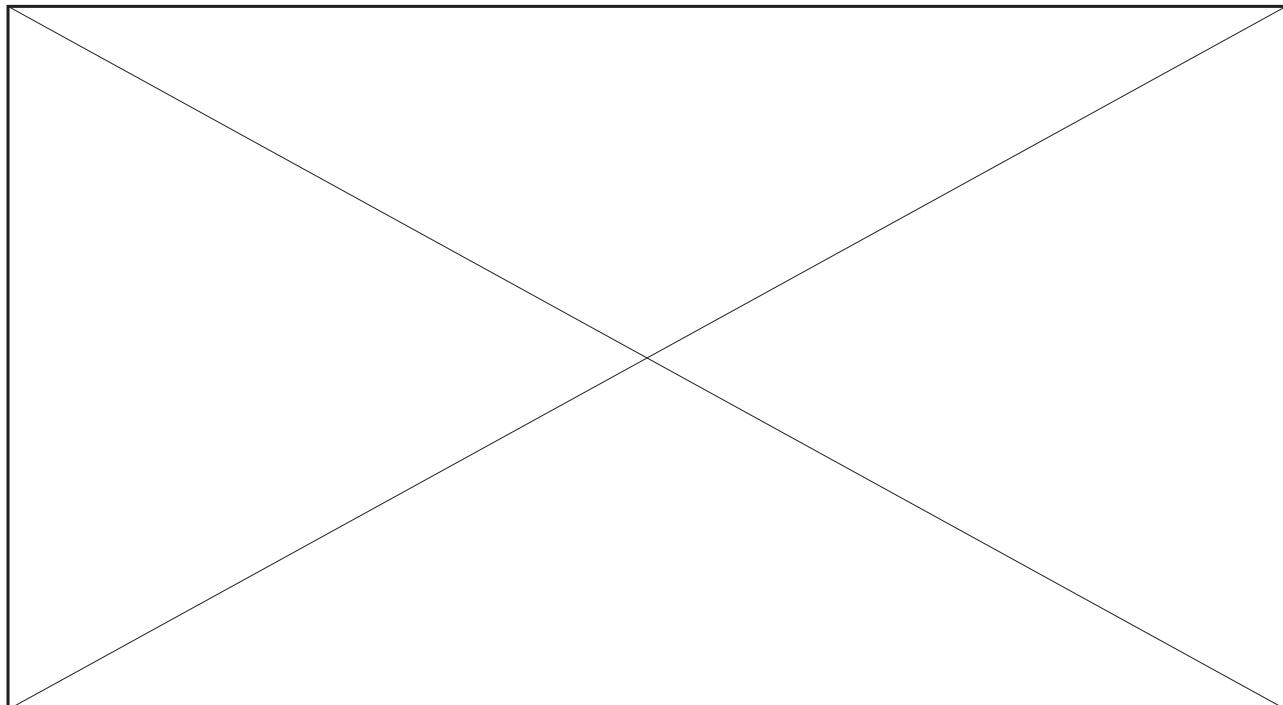
さて、今の愛媛県の高校演劇の活動状況ですが、現在加盟校が19校、その内、休部している学校を除くと

16校。また、大会に参加している学校は13校と年々規模は縮小され、まさに極々小規模の専門部となっています…（汗）。そんな中、公開された「幕が上がる」の効果で、県下にも演劇ブームの再燃！どの学校も新入部員がわんさか！…と期待したのですが、なかなか現状は厳しいようです。現在3地区（東・中・南）で実施している地区大会を今後も存続させていくことが目下の課題です。少子化かつ自己表現が苦手な生徒が増えたせいでどうか？どちらにせよ、また、私を含め、演劇に精通した先生も少なくなり、専門部の運営はもちろん、各校の演劇の指導についても、常に諸先輩方のご指導がなければ立ち行かない状態になっています…（泣）。そんな中、夏休みを利用して夏期講習会と2月に専門部独自の大会として新人大会を開催し、各校の演技レベルの向上を目指して活動しています。

自己紹介が遅れました。私、愛媛県の事務局長をしている神田です。現在は、愛媛県の東の端の新居浜の小規模校（新居浜南）で小さな演劇部を営んでいます。昨年度より、前事務局長が四国の事務局長に栄転され、正に急転直下の青天の霹靂で事務局長になりました。3年契約のワンポイントリリーフでの登板となりましたが…実力不足でしょうか？毎日が炎上状態ですが、バック（周りの役員の先生方）に助けていただき、なんとか専門部を運営することができています。ただ、ただただ！！来年の愛媛開催のブロック大会が無事できるのか？毎日がその不安との闘いです。こんなずぶの素人の私ですが、演劇に関わり始めて、はや7年になります。最初は、舞台をつくる難しさとおもしろさを知らないまま活動に関わっていましたが、今はその両面を強く感じます。生徒とそれなりに満足できる作品ができても、次はそれ以上のものができるのか？また作れば作るほど、血が薄まって、内容のない作品になっている気がします。また、演劇を知れば知るほど、自分にはできないことを強く感じ、逃げたくなることもあります。それでも関わってしまうのは演劇の魅力でしょうか？どちらにせよ、個人としても愛媛県の専門部としても、これからも演劇の輪を広げていけるよう、できることを精一杯やっていきたいと思います。

（愛媛県高等学校文化連盟演劇専門部事務局長）






事務局通信

桜の花がきれいに咲き始めた広島で、平成28年度の常任理事会、理事会が行われました。まず、昨年度の滋賀大会のまとめが示されました。会場の収容人数を大幅に上回る2,000名近い観客が参加したことについては、地理的にも大都市圏から来やすい環境と相まってよかったです。関係者の一般観客に対する心配りに欠けるところがあり、特に入場整理の面からIDカードの発行について整理する必要があると指摘されました。

広島大会については、会場の収容数の少なさに対して入場整理の工夫を要すること（受付の分離等）、昨年度の吊り物落下事故をふまえて、上演前に吊る等の安全面での対策がなされること等が提起されました。また、生徒講評委員会の活動のより一層の浸透を図る取組として事前講習等のサポートを行うこと、大会期間中も生徒主体の活動状況を見てもらうこと等、昨年度の反省をふまえて具体的な提案がなされました。

生徒講評委員会については、今回の開催地の意向を受けて、平和記念公園の研修を組み入れます。戦争の悲劇を忘れないために、長崎大会では期間中参加者が千羽鶴を折り、平和記念公園に贈る取組をしました。世界で初めて原爆が

投下された広島において、その事実を見すえることは、私たちにとって多くのことを考えさせてくれる機会となるはずです。

さらに、今大会から「演劇連盟大学賞」が最優秀校に授与されます。副賞として講習会の実施が設定されますが、これは受賞校のみならずその地域全体の演劇活動の活性化を図ることに寄与するものと期待されます。

春季全国大会については、今年3月の第十回伊達大会の終了後、区切りの総括を行うとともに第11回以降の大会運営の方向性を考えていきます。この後、岐阜（大垣）、神奈川（横浜）、愛知（豊橋）と続きます。開催地の生徒、先生方の取組に期待します。

上演作品の「参考」の取り扱いについては、四国ブロックからの問題提起を受けて、各ブロックでも協議されました。文化庁等が示す著作権における「参考」の扱い等もふまえて、今後も全国高演協としてコンセンサスを得ていくための議論を進めていくこととします。創作活動を縛るのではなく、より発展させていくために、私たち自身の問題としてとらえていきたいと考えます。

阿部事務局長はじめ事務局、常任理事、理事の先生方、今年度もよろしくお願いいたします。

（事務局 三上 実）

平成28年度 全国高等学校演劇協議会加盟校数一覧

地区	都道府県	加盟校数	地区	都道府県	加盟校数	地区	都道府県	加盟校数
東 北 (206)	北海道	108	中部日本 (261)	富 山	20	四 国 (65)	香 川	14
	青 森	30		石 川	22		高 知	18
	秋 田	23		福 井	15		徳 島	16
	山 形	29		愛 知	134		愛 媛	17
	岩 手	29		岐 阜	42		福 岡	65
	宮 城	45		三 重	28		佐 賀	10
	福 島	50		和 歌 山	13		長 崎	19
関 東 (897)	茨 城	60	近 畿 (272)	京 都	29	九 州 (197)	熊 本	32
	栃 木	40		奈 良	21		大 分	12
	群 馬	44		大 阪	112		宮 崎	17
	千 葉	115		兵 庫	77		鹿 児 島	27
	埼 玉	114		滋 賀	20		沖 繩	15
	東 京	222		鳥 取	20			
	神 奈 川	130		島 根	14			
	静 岡	44	中 国 (147)	岡 山	48			
	山 梨	22		広 島	41			
	新 潟	48		山 口	24			
	長 野	58						
							合計	2,153

優秀校東京公演について

優秀校東京公演は、8月27日(土) 28日(日)に国立劇場(東京都千代田区)で開催されます。

全国大会で推薦された4校の上演の他に、東京都から特別上演が1校、演劇以外にも、日本音楽と伝統芸能の発表が行われます。入場に際しては、開催日ごとに入場引換券が必要です。

—観覧ご希望の方は—

- ★ 観覧希望日を明記。1申込みにつき両日合わせて6枚まで申込可。
- ★ 返信用封筒を同封。
 - ※82円切手を貼り、返信先を明記。7.5×19(cm)のチケットを折らずに入るものをご用意ください。
- ★ 8月10日(水)必着〆切で、下記までお申し込みください。
- ★ 先着順に整理券を送付いたします。予定枚数に達したら締め切ります。

〒136-0074 東京都江東区東砂7-19-24

東京都立東高等学校内 優秀校東京公演 申込受付係
宮下 克士 宛



NHK「青春舞台」について

今年も9月初旬にNHKEテレで「青春舞台」が放映されます。(詳しい日程については後日お知らせします。)

昨年同様、出場校のいくつかと、全国大会(広島)の模様を取材していただき、国立劇場の優秀校東京公演で撮影した最優秀校の上演をメインにした2時間番組を予定しています。

今年も、皆さまの反響のお陰で、「青春舞台2014」の再放送が行われました。BSからEテレに変わり、放送時間も短縮されてしまいましたが、今後も反響の大きさが、番組の継続につながると思います。葉書、メール等で、番組の感想をNHK宛に送っていただきますようお願いいたします。